

祝発行200号

元気の出る
信念会

2002年1月7日の仕事始めの日に崇マルベリーホテルにて、仕入先様約30社が一同に会し「元気のでる信念会」が行なわれました。

はじめに、森会長の「21世紀に入り、デフレスパイラル・海外移転・リストラが激しく進行する中ではありますが、会の名前通り“信念”と“活力”で不況をチャンスと解し、“利は元にあります”の精神で御列席の皆様と共に前進していく所存でありますので、今年もよろしく御願ひ致します。」という年頭の挨拶の後、菱興プラスチック(株)様の稲岡社長の乾杯の音頭で始まりました。

BGMで演奏された中国の打弦楽器「楊琴」では、その珍しさと美しい音色に興味を持たれた参加者が楽器の周辺に集まり、150本の弦を見事に打ち分けながらの演奏に感心する風景もありました。

余興でのカラオケでは日頃はなかなか見られない特技の競合が繰り広げられ時間の過ぎるのも忘れてしまうほどの盛り上がりでした。

なごやかな雰囲気のうち閉会の時間となり、杉産業電機(株)杉浦社長の音頭でお手締めを行い、お開きとなりました。



信念会幹事 牧野 光昌

「おめでとう200号！」

モーリンの皆さんは、2月も「おめでとう」が続きます。

中国のお正月の事ではありません。今月は社内報(波紋)の発刊が丁度200号となりました。200号記念(オメデトウゴザイマス)。

1985年7月1日に創刊号が出ました。初代編集長は牧野光昌さんです。

ネーミングは社内の多数の応募の中から選びました。「波紋」の他に「ニュー・ウエーブ」「報、連、相」等があった。

その年の慰安旅行は信州霧ヶ峰・白樺湖・サントリー工場で、翌朝はサイクリングとテニス大会を開催したという記事が載っていた。現在の安井夫人の富田美千代さんも新入社員として紹介されています。

創刊号と2号、3号は3階事務所の掲示板に貼っておきますので御覧下さい。当時、17年前の発刊にあたり社長として私が言っている事が二つあります。

①「森松マン精神」を実行すること(理解し行動して欲しい)。

②「報、連、相」を忘れない。その中で「悪い情報」ほど早くホウレンソウをすること…でした。

21世紀に入った現在も右記を毎日朝礼で唱和をしているが、全員がシッカリと心にキザムまでにはいたっていないのが本場に残念です。

今年の「社内改革」第一歩は全員が「森松マン精神」を自覚することから始めます。

そして、これからもこの社内報を通して、会社は今、どんな状況に置かれどんな行動をしているのか、又、モーリングループが今後どんな方向へと向かって行こうとしているのか、皆さんに少しでも知っていただけたら幸いです。今後共、どうぞよろしく!!



森 信 之

『森松USA社内報』

日本経済は昨年以上に厳しい情勢となりそうですが、こういった環境でこそその会社の実力が問われるでしょう。先月波紋で会長が言った様に森松も、森松なりの組織改革、改善により新世紀に対応した組織作りを進めます。

さて、先日出張でアメリカの国内線を利用した際、ふとしたことからジェットブルー・エアウェイズという航空会社を利用することがありました。聞いたことの無い会社でしたので（創業は2年前）パンフレットを見てみるよLOW FARES（低料金）ということを第一に挙げています。なるほどコストを低く押さえるために、機内も大手他社とは違う点がいくつかあります。

- ・アルコール類のサービスは有料（食事も）。
- ・各社独自で発行している番組表が無い。なぜなら映画は放映せず デイレクTVが入っているため。
- ・エコノミークラスのみの座席

また、ただコストを押さえようとしているだけではなく、機体は最新型のものを使用し、シートは革張りのものを使用しています。

アメリカでは電車感覚で利用される飛行機ですから、日本とは違い各地方で独自の特徴を出して競走していることが毎回地方へ行く度にわかります。また、何かそういったものが無くては生き残ることはできません。これらのことはもちろんすべての業界に当てはまるので現状の日本の塩ビ業界を取り巻く環境を思い、考えさせられるフライトとなりました。きつとこれから以前の常識では起こらないことが起こるような変化の時代でありますから、ますます面白くなるでしょう。

ちなみに、私にとって飛行機は「確率的に一番安全な交通にもかかわらず一番恐怖感のある乗り物」であつたりします。

森 直樹



『自作パソコン』

昨年12月に会長の指示により、社内のパソコン17台を自分達でグレードアップするべく、マザーボード・CPU・メモリ・HDDの組替え作業を自作パソコン経験者の加藤さんを先生に行いました。

先生が一人ではとパソコン委員長である自分も事前に組換えに挑戦し、先生二人体制で望みましたが思うように指導、ソフトのインストールができず、3時間で終わるパソコンもあれば、午後6時から始めて午前4時までかかって終わらないパソコンもあつたりと貴重な経験をさせていただきました。

その経験を活かし、年末に娘のパソコンも自作に挑戦してみました。現在も無事稼働しています。メーカー製のパソコンでは、このような組替え作業は困難ですが、自作であれば今後マザーボード・CPU・メモリの変更と最小限の費用にて最新に近いパソコンが出来るようになるため、良い経験をさせていただいと感謝しています。

皆さんもパソコンを買い換えていくのではなく、安価にグレードアップしていただける自作パソコンにしてみたいかがですか？

岩間正美（ポテト）



『出会い』

森松に入ってから5年目になり一番仕事を楽しんでいく時期のような気がします。何が楽しいかといったらやっぱり営業という仕事だと思います。つらい事があつたりしても新規のお客様と出会ったときにすぐ話しが弾んでこれは何とかなるぞと思つたときとか、今までのお客様が別のお客様を紹介してくれたりとか、苦勞したものがきちっと商品になり流れ出したときとか、本当に営業職しかわからない感覚があると思います。失敗もしますがそこから成功へつながっていくことも多いと思います。

さて原点にかえて考えて見ました。森松で5年ですが、社会人になって14年、前の会社でも営業をしていました。入社するときの希望が営業職だったので。その時はなぜ営業職を選択したのでしょうか。多分漠然と「たくさんの人と出会えるから」とか面接で言った気がします。このときはまだ何も始まってません。始まってからの出会いを名刺で振り返っていくとすごい数の出会いが14年間で蓄積されています。中には当然覚えていない人もいますが、名刺が光って見える人も中にはいます。そういう人は自分の中に変化をもたらしたり苦勞した仕事を一緒に携わった人とか、継続して今も付き合っている人だつたりします。社会人になるときはこんなにくさんの出会いを予想していたのでしょうか。全然していません。数の多さだけでなくこの名刺はすごく重たく思います。

これから先も営業を希望するんだろうな…多分これから動けなくなるまで出会いを求めてもつともつと重たくなって行くかな。

黒松康郎

（キャロット）



読後感

「プロジェクトXリーダーたちの言葉」今井 彰著

この本を読んで18人のリーダーのすばらしい功績に頭が下がる思いでいっぱいでした。今回帰郷するにあたり明石大橋を通ったのですがいつもなら何気なく通りすぎるだけですが、何年にもわたり、橋を作る為に働いた人たちのご苦労が少しは分るようになった気がしました。

私なりにこの18人の共通点を考えてみたのですが、私利私欲がなく権力やお金に執着せず、自分の信念を貫く姿が部下を動かしたのではないかと感じました。また、責任は自分ひとりで取るという姿勢に頭が下がります。

決して愚痴を言わず、前に進む事しか考えず1歩1歩コツコツ努力し続ける姿勢、いかに自分自身に厳しく出来るか、部下を思いやれるか、私自身に足りない物をたくさん教えてもらった想いでした。「部下がついてくるかどうかは、リーダーが苦しんだ量に比例する」と言う言葉に感銘しました。私自身この18人にの様にはなれないでしょうが少しでも近づける様毎日コツコツ努力していきたいと思いました。やはり基本は愛でしょうか。

吉岡 孝記 (トウモロコシ)



「中村修二の反乱」畠山けんじ著

この本は中村修二が「青色LED（発光ダイオード）」を開発し成功までの事が書かれていました。

そこには、装置の名前や半導体など物質の名前が出てきたのですが、私には何の事かさっぱり分かりませんでした。会社の命令は絶対だというのが普通ですが、その命令を無視し、自分の思った様に行動した。その結果、「青色LED」の開発に成功した。もし、会社の命令に従っていたら、この成功は無かったかもしれないと思うと、自分の考えに自信を持って最後まで諦めずに行動した中村修二はすごい人だなと思いました。

また、「四、五年おきに会社を辞めよう」と言う言葉がありました。それがアメリカでは当たり前のことだと言っていますが、私には考えられません。いろいろな仕事を経験する事で勉強になり、視野が広がると思います。でも、そんな事は簡単に出来る様な事ではありません。それを実際にしてしまうなんてと思いました。

時にはこういった思い切った行動も必要なのではと思いました。

小坂 美香 (キャロット)



『夜明け前を信じて』

21世紀初年は、えひめ丸沈没で始まり、9月の米中核同時テロ、アフガン空爆、12月に入ってから米エネルギー大手エンロン破産法適用申請、東シナ海の不審船事件と激浪が日本、世界を襲いました。

そして、開けて2002年、我が家では、元日、午前零時を待って我が古女房と二人で近所のお寺に初詣。昨年の景気の低迷、デフレを引きずってと有ってか参詣者は例年の5割増し位の賑わい。型道理の健康と家内安全、仕事では、昨年の轍を踏まないようにと、仏様に少ないお賽銭にて、図々しくも色々御願いする。

然し、困った時の神頼みと今度は、神社に直行、又も御願い、ええい、此処まで来たなら、ダメを押そうと、もう1社に詣で。これでは、神様、仏様もウロウロ、ご利益半減か？

午後より実家に家族にて年始。2日目は寝正月を決め込む。3日目、さあ今日は1年に1度恩師、友人と旧交をさたためる事が出来る楽しい日、ところが、昨夜来の雪、1月の降雪量としては41年振りの大雪、何で今日に限って、初詣が悪かったのかナ。ここでメゲテはと長靴を履いて最寄の駅に出かけるも駅員さんに大垣より先は無理だといわれ已む無く撤退家にてやけ酒を食らい不貞寝。サエナイ3日目であった。

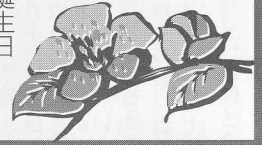
1年明け早々から各地で地震、大雪とこの定、ユニクロ成長神話が崩壊、ダイエー再建、アルゼンチン債務不履行などと次々とショックなニュースが飛び込んできます。然し、自分を信じ、ご利益を信じ、夜明け前が1番暗いと言いますが、素晴らしい夜明けを信じ、今年1年を乗り切りたいと思う。



近藤 謙 (サクランボ)

2002年

2月の予定



2日(土)	第一土曜休み
4日(月)	稲葉善貴さん誕生日
5日(火)	法人会・厚生委員会 16時00分～19時00分
9日(土)	第二土曜休み
11日(月)	建国記念の日
15日(金)	村田さん誕生日
16日(土)	第三土曜休み
18日(月)	森ゼミ 18時00分～19時30分
19日(火)	桜井さん誕生日
23日(土)	牧野さん誕生日 経営会議 8時30分～9時30分
24日(日)	光田さん誕生日 営業会議(昼食付) 10時00分～12時30分
25日(月)	生産会議 18時00分
26日(火)	編集会議 18時00分

おかげ様で発行200号

森松社内報「波紋」はおかげ様で、今回で200号を迎えることができました。これからも、社内・社外でコミュニケーションの波紋がひろがるようがんばっていきます！

編集委員一同



87年野球大会(丹後球場)



30周年記念パーティー



90年高山社員旅行



93年ビアパーティー(当社屋上)

「初代編集長より一言」

なんと創刊号は私がまだ29歳の時に発刊されていて、編集委員は女子社員ばかり5名という幸せな時代でした。

その頃の編集委員はもちろん今は主婦として母親として頑張ってみえますが、すばらしい歴史をスタートさせてくれた仲間として、あらためて感謝申し上げます。

また、現編集委員の皆様、1000号を目指して頑張ってください。

初代編集長 牧野 光昌

編集後記

2002年の幕開け。皆さん、様々な年越しをされたことと思います。私はナガシマスパーランドのカウントダウンに行っていました。

思えば一年前の大晦日は、和歌山県のホームセンターで年越し寸前まで働いていたんだなあと、車を走らせながら時の流れと環境の変化に物思いにふけてしまいました。

しかし、着いてからはそんなことも忘れ、綺麗なイルミネーションと活気でいっぱい園内で、久しぶりに楽しむことが出来ました。人気のある乗り物には当然行列が出来、待ち時間が一時間半くらいかかるものもありました。

しかし、乗っている3分間くらいは、別世界に溶け込み、また日頃の底から声を出すことも少なうなってきた日常で、思う存分叫ぶことが出来、降りた後には何とも言えない爽快感がありました。



梅田文康 (レモン)

お詫びと訂正

※1月号訂正
1月号一面「改善発表会」の順位に間違いがありました。成瀬さん(ひまわり)が2位、黒松さん(キャロット)が3位、が正しいです。(逆になっていました) お詫びして訂正させていただきます。